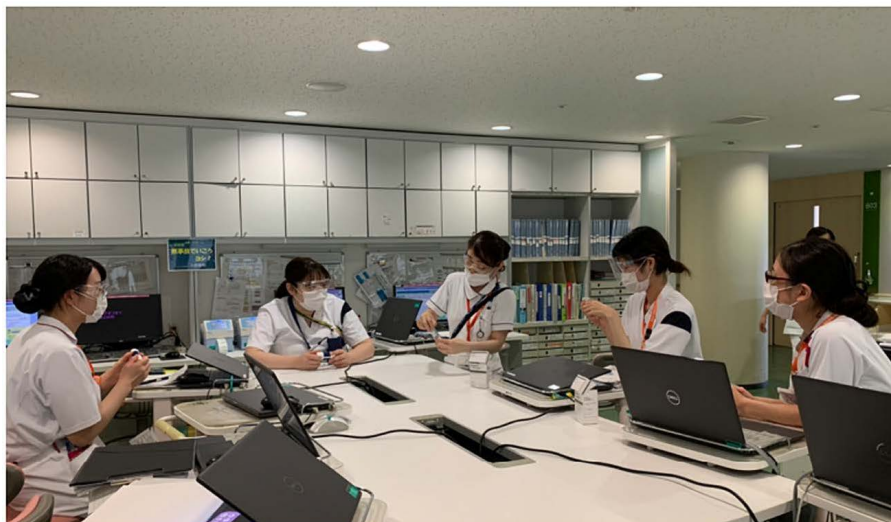


～慢性呼吸器疾患看護認定看護師の役割と活動～

現在女子医大には、エキスパートナース、認定看護師、専門看護師、診療看護師が約60名在籍し、中には兼任して活動されている方もいます。

私が入職した当時は認定看護師や専門看護師の存在はまだいなかったと記憶しています。同じ部署の先輩の中には、認定看護師を目指し、資格をとって活動を開始された方や忙しい勤務の中、自分のやりたい看護、今必要だと思うことを純粋に追いエキスパートナースになり、女子医大にはなかった、看護分野の専任者になった方もいました。その背中を見る中、漠然とした憧れとともに「認定看護師になれたらいいな」と思っていました。自分が何を専門としていきたいかは定まっていなかった状態でした。

第1病棟が建設され、呼吸器内科は、呼吸器内科、血液内科、高血圧内科の3科混合病棟から呼吸器内科単科の病棟として移動となりました。単科となったことで呼吸器内科の患者さんと深く関われる環境の中、間質性肺炎で入退院を繰り返す患者さんを受け持つ機会がありました。患者さんはカプセルタイプの吸入薬を使用していましたが、処方分すべてが、PTP包装シートから外され瓶に移して管理されていました。本来カプセルタイプの吸入薬はカプセルの中に粉が充填されており、吸入時に専用器具に装填し穴を開け吸入するものとなっています。うまく吸入し、薬効を得るには粉が乾燥していることが必要であり、このため吸入時にカプセルの入ったPTP包装シートをその都度開けることが大切でした。この経験が、吸入薬に興味を持ったきっかけとなり、自分の知識を増やしもっと良い看護ができるようにしたいと考え、慢性呼吸器疾患看護認定看護師を目指して資格を取得し、1回目の更新を終えました。



部署でのケアカンファレンスの様子

慢性呼吸器疾患は徐々に悪化し、増悪を繰り返すことで、階段を降りるように肺の機能が悪化していきます。フレイルなどの影響も加わり、日常の生活労作の中でも息切れを感じるようになり、酸素需要が増し、在宅酸素療法を導入したり、日常生活の労作に工夫や介助が必要となっていきます。部署では吸入薬勉強会等の勉強会やOJTによるスタッフ指導と教育、患者教育をしています。院内活動では呼吸ケアサポートチーム（RST）と呼吸ケア質の向上プロジェクトチームに所属し、院内の呼吸ケア看護の支援や教育体制の整備、アクシデント再発防止により安全・安楽な呼吸ケアを提供することを目的に活動しています。過去に、私が影響を受けたように、スタッフに良い影響を与えられたらと思っています。